

板橋区都市づくりビジョン（案）に対する パブリックコメント（意見）と区の考え方

番号	内 容	区の考え方
・計画全般について		
1	<p>都市づくりビジョン（案）には、中期的視野では賛同できますが、長期的には高齢者比率増加と納税現役世代の縮小基調時代に対する高齢者健康寿命延長・医療費軽減策と三世代安心居住対策が不十分と思います。</p>	<p>今年度策定を予定している「板橋区住まいの未来ビジョン 2025」において、基本施策を横断的に捉える取組として、「近居・隣居の促進」を位置付け、UR賃貸住宅や公社住宅の近居の促進支援や、民間事業者等の柔軟なアイデアを実現させるための情報提供や支援を検討しています。</p> <p>また、健康分野においては、「いたばし健康プラン」に基づき、健康意識の醸成や健康管理の徹底による健康づくりを進めております。</p> <p>更に、高齢者福祉の分野においても、シニア世代活動支援の施策や介護予防等の事業によって健康寿命の延伸をめざしております。</p>
2	<p>予測される幾つかの課題の中で、戸建空き家問題もさることながら、老朽化マンションのリフレッシュ事業着手遅れも課題で、既存不適格建築物の増加が懸念されます。背景には、築年数経過とともに区分所有者の年齢差が拡大して意見交換が交錯し、管理組合の「建て替え事業決議」難航が深刻です。</p> <p>更に、税収入が伸び悩む中で公共施設の老朽化も対策が必要と思います。</p> <p>そこで、区主導で高齢者の扶養費軽減を目的にした健康寿命の向上策が進められていますが、身近な公園の改善策として「敷地高低差を生かしたウォーキング遊歩道や遊具を備えた三世代公園」への改良及び敷地に余裕があるマンション敷地内への新設を提案します。西台公園のようなアスレチック方式も有効だと思います。</p>	<p>今年度、策定を予定している「板橋区住まいの未来ビジョン 2025」において、基本施策を横断的に捉える取組として、「マンション維持・管理に関する取り組み」を位置付け、また、分譲マンション管理の適正化を目的とした「板橋区良好なマンションの推進に関する条例」を制定し、マンションの登録を義務化し、マンションの適切な維持・管理を推進する取組を実施いたします。</p> <p>また、区立公園の新設や再整備の際には、健康増進や世代交流に繋がる施設整備など、地域のニーズに応じた公園整備を進めていきます。</p>
3	<p>医療と住まいの問題は、医療制度の改革で、病院の入院療養から掛かり付け医と地域包括センターとも連携した在宅看護介護システムが進められていますが、数十年先を見据えた未来型区営住宅の構築を提案します。</p> <p>現役世代が快適に生活できる設計を基本に、怪我や病気はもとより老朽化した時に備え、バ</p>	<p>今年度策定を予定している「板橋区住まいの未来ビジョン 2025」において、基本施策を横断的に捉える取組として、「区営住宅の再編」を位置付け、ミクストコミュニティを備えた区営住宅をめざしております。</p> <p>また、区の介護保険事業計画及び産業振興構想との整合を図り、ご意見を踏まえ検</p>

	<p>リアフリーをはじめ、在宅介護在宅看護を可能にする簡易改装ができる「シルバー住宅・三世帯住宅」を産官学で立案する実証実験等の検討を提案したい。</p> <p>更に、当集合住宅に地域包括センターや医療診療所を併設すればベストです。</p> <p>については、敷地に余裕ある老朽化マンション管理組合と取り組む総合的な実証実験事業推進を提案します。</p> <p>この実証実験の結果を基に適宜改善補正を行って、老朽化戸建の木造住宅密集地域の再開発にも活用できると考えます。</p> <p>来るべき人口減超高齢化社会にも「三世帯が住みたくなる魅力ある区」を目指して下さい。</p>	<p>討してまいります。</p>
<p>4</p>	<p>「都市づくりビジョンの説明会」に出席させて頂きましたが参加者が少な過ぎると思います。多くの区民が参加して喧々諤々の議論があって然るべきではないでしょうか。</p> <p>その原因は区民の「この問題に関しての無関心」であり、区の「知らしめる努力」の不足では無いでしょうか。</p> <p>やるべきは区民にこのようなテーマに興味を持って貰い、その意見を幅広く聴取出来る事が可能な仕組みを構築する事ではないでしょうか。今までと違った観点から区と区民のコミュニケーションの場を作る事が必要ではないでしょうか。</p> <p>まずは、今回の 12 か所での将来像への説明会でどんな意見がありどんな議論がなされたのかの説明を区報や広報いたばしだけでは無く、例えば区内の開業医の受付やスーパーのレジ、駅の構内等々でチラシを配布や更なるホームページや SNS の活用も検討され区民に知って貰う事から始めては如何でしょうか。</p> <p>また、少人数で喫茶店ででも区のご担当者と区民が区の将来像をダベルなんて面白くありませんか。</p>	<p>都市づくりビジョンの説明会にご参加頂き、ありがとうございます。</p> <p>説明会を開催するにあたり、昨年度と同様に、広報いたばし、区公式ホームページ、区公式ツイッター、町会の回覧板、区内の公共施設にポスター掲示・パンフレット配布を行うと共に、新たな取組として、区内の鉄道駅にポスター掲示を行い、周知を行いました。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりをするにあたり、更なる周知の工夫と努力をさせていただきます。</p> <p>また、説明会の意見とその周知については、意見の概要を公表したいと考えています。</p> <p>最後に、区民と区の担当者がまちの将来像を議論する場を設けることについては、今後検討させていただきます。</p>
<p>5</p>	<p>板橋らしい個性のある具体的な提案がないのが全体の印象で、地域に出掛け実際の問題点を見つけ出す努力をしてほしい。地域の住民との気楽な丸座の会を多く設けてあらゆる場面で住民を巻き込んで一緒に未来像を作り上げて欲しい。</p>	<p>都市づくりビジョンは、平成 28 年度から庁内や学識経験者を中心に検討を進め、アンケート調査、説明会、パブリックコメントを実施し、区民意向を把握してきました。</p> <p>また、区内のまちづくり協議会等や都市づくりビジョンで定めた都市づくりに関する</p>

		<p>る6つのテーマに関連する区民団体に対してヒアリングを行い、各分野に対する意見を頂いてきました。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりをするにあたり、多くの区民と意見交換できるような場について、検討していきます。</p>
6	<p>東京で一番住みたくなるまちづくりを目標としていることはわかりますが、「住みたいまち」を標榜する以上、区外の住民へのアピールをはかる必要がありますが、区外からの移入者を引き込むだけの魅力的な提案には至っていないと思います。今後、個別の課題ごとに具体的な計画が立案されていくことと思いますが、魅力を分かりやすくするメッセージ性の強い表現が必要だと思います。</p>	<p>都市づくりビジョンは、「都市計画に関する基本的な方針」のため、計画の性質上個別の事業について記載をしていません。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後具体的な都市づくりを進める上で、魅力的な事業とすることやその魅力を発信していくこと等のシティブロモーションに取り組んで、「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちをめざしていきます。</p>
7	<p>生産年齢人口の増加を目指し、常に時代の変化に敏感に合わせられるような仕組みづくりをし、魅力あるまちづくりを行ってほしい。</p>	<p>第3章都市づくりの考え方と方向性の中で、都市づくりのテーマ毎に魅力あるまちの姿を示し、まちづくりに取り組んでいきます。</p> <p>ご意見を踏まえて、時代の変化にも対応できるように、都市づくりを行います。</p>
8	<p>マンション建設が進むと、地域の人口が急増するので電車の混雑が悪化するし、生活環境等も狭苦しくなる。「住みたくなる」「住み続けたい」ということが人口増ではないと思うので、生活環境が悪化しないよう、地域貢献を積極的にさせる等の対策をしてほしい。</p>	<p>区では、生産年齢人口の定住化を促進する取組を進めています。</p> <p>一方で、一定の規模以上の建築物に対して、大規模指導要綱に基づき、建築主に対して地域貢献をするように指導を行っています。</p>
9	<p>東京で一番住みたくなるまちというビジョンは分かるのですが、重点項目がはっきりしません。限られた税金・予算の中で、東京で一番のまちにするには、「板橋なら」「板橋しか」という特徴を明確にし、優先順位についても明らかにしたほうが良いと思います。</p> <p>これに関しては近隣の自治体の動向等を見据えて、板橋ならではという特徴を出して他との違いを出す必要があると思います。</p> <p>なお、防災については優先事項から外すことのできない課題だと思いますのでご配慮いただきたいと思います。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第6章エリア別の都市づくりにおいて、今後20年以内の都市づくりを推進する「都市づくり推進地区」を定め、優先的に推進する地区を明らかにしています。また、防災を視点とした取組も含んでいます。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりにおいては、近隣の自治体の動向や区ならではの特徴により、都市づくりの優先順位を検討していきます。</p>
10	<p>都市づくりビジョンの直接対象である都市計画において、生産性と公平性、機能性と強靭性を両立させることにより、持続可能性の向上を図っていることが優れていると感じています。</p>	<p>都市づくりビジョンは、「都市計画に関する基本的な方針」として、区の20年後を見据えた概ね10年間の計画を定めています。</p> <p>区は、この都市づくりビジョンにおいて</p>

	<p>様々な都市機能が集積した都市中枢域や都市・生活・交通・緑化・物流拠点を形成して生産性の向上を図ると共に、それらを結ぶ移動軸を整備して結び、区内全体がその利便性を得られるようにしています。</p> <p>また、交通・産業・医療・介護・緑地等の機能をネットワーク化することは、平時の相互協力における機能増進と共に、災害等でどこかが機能できなくなっても、他の拠点でそれを補えるという、強靱性を高める意義があるのではないかと思います。</p> <p>これらはいずれも、都市施設等の物的資源や、生産性と分配のバランスによる経済・社会活動、さらには子育てや医療による人的資源の、持続可能性の向上をもたらします。</p>	<p>示した将来像や計画に基づき、具体的な都市づくりや個別の事業に取り組んでいきます。</p> <p>今後は、都市づくりビジョンで示した取組を実現するために、連絡調整会議等をつけて、進行管理を行い、実現に向けて取り組んでいきます。</p>
11	<p>区は物価も比較的安くて住みやすい地域であると感じていますが、これといって区民として誇れるものや特徴がないと長年感じていました。</p> <p>今ある地域の特色を生かした都市づくりビジョンですが、区全体としての新たなランドマークの創造等で、個性を発揮できないかとも思います。</p>	<p>区の魅力は、地域の多様性として、都市づくりビジョンでは、地域の多様な魅力を活かすため、第6章のエリア別の都市づくりで取組を整理しています。</p>
○第3章 都市づくりの考え方と方向性（テーマ別の都市づくり）		
・全般		
12	<p>当区と同様に人口減・高齢化の問題を抱えている近隣の北区や練馬区で掲げている課題とほとんど同じで施策も網羅的になっているため、差別化戦略が見られません。</p> <p>一番住みたいまちを標榜してこれから若年層を呼び込もうとするのであれば、革新性の高い戦略を打ち出す必要があります。</p> <p>また、区に移入して欲しい対象層を設定しないで、課題の具体化を進めても期待した成果に結び付かないと思います。因みに、北区では外国人の受入れに取り組もうとしている様で、こういった発想があってもいいと思います。</p>	<p>区では、高齢化の更なる進行や近い将来に人口が減少することが推計されていることから、板橋区基本計画 2025 の未来創造戦略では、子育て世帯や女性・若者をターゲットにしています。</p> <p>また、都市づくりビジョンでは、「東京で一番住みたくなるまちとして評価されるまち」をめざし、都市生活の質を向上させるため、第3章都市づくりの考え方と方向性において、都市づくりのテーマを設定し、ハード・ソフトの両面を含めた取組を整理しています。</p>
13	<p>先導的な取組として挙げられている地域はどちらかと言うと、元々公共交通機関が充実し交通結節点として重要な役割を果たす駅を中心として考えられているようなので、今後20年間の取組では他の駅で推進していく順位等で位置付けることで活性化にも繋がるのではないかと思います。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第6章のエリア別の都市づくりにおいて、今後20年間で優先的に都市づくりに取り組んでいく「都市づくり推進地区」を定めています。</p> <p>先導的な取組に位置付けしている地域は、現在都市づくりに取り組んでいる地域</p>

	う。	が大半ですが、その後に都市づくりに取り組む地域においては、ご意見を踏まえて、都市づくり推進地区に位置付けている公共交通が充実していない駅についても取り組んでいきます。
14	<p>都市生活の質の向上に向けた6つのテーマにおいて、まず区自身のあり方を律するための、協働と調整という施策をあげていることが優れていると感じています。</p> <p>多様な主体の協働と、区による総合的なマネジメントの促進が方針とされており、生活向上や情報媒体の発達により区民や企業、大学がより行政に参画できるようになる一方、区には経済・社会活動の大規模化や複雑・加速化に対応するため、衆知を集めてよりよい決定を導けるような政策形成支援能力が求められているということに、上手く対応しています。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、「東京で一番住みたくなるまち」をめざし、都市生活の質の向上に向けて、第3章の都市づくりの考え方と方向性で、都市づくりのテーマを設定し、取組を整理しています。</p> <p>共通テーマの協働とマネジメントが進んだまちにおいて、民・学・公の連携等の協働の都市づくりを位置づけしています。</p>
15	<p>都市づくりの5つのテーマでも、関係する様々な政策のバランスがとれていることが優れていると感じています。</p> <p>駅を中心とした交通基盤整備は、公共的な建物や設備の整備というインフラ政策だけでなく、産業・地域振興という経済・社会政策にも大きく関わっています。</p> <p>ものづくり産業の育成は、単なる産業振興にとどまらず、板橋ならではの高度な技術をさらに発展させていこうとする、科学・技術政策も含んでいます。</p> <p>地域の個性を生かした環境・文化の創造や、災害に強いまちづくりは、地域振興という経済・社会政策やインフラの強化だけでなく、区民全体でどうすれば魅力的で持続可能なまちづくりができるかという、社会工学的な政策も含んでいます。</p> <p>ライフステージにあわせて住み続けられるまちでは、社会保障等の社会政策だけでなく、教育や医療・介護等の地域を担う人々を育て、健康を守る政策も含んでいます。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、「東京で一番住みたくなるまち」をめざし、都市生活の質の向上に向けて、第3章の都市づくりの考え方と方向性で、都市づくりのテーマを設定し、取組を整理しています。</p> <p>都市づくりのテーマにおいて、ハードとソフトの取組を整理して、今後の都市づくりに取り組んでいきます。</p>
・ 共通テーマ：協働とマネジメントが進んだまち		
16	<p>文中多様な主体と共働とあるが、単独主体でも困難な問題を解決するには大変なエネルギーと信念が必要となるが本当に実現するのか疑問である。</p>	<p>板橋区では、区立公園の新たな管理運営の方針として、板橋区パークマネジメントガイドラインを策定する予定です。現在、地域・民間等の活力を活用した公園運営、</p>

	<p>道路や公園の維持・管理・活用の具体案は何か。緑を植栽すれば済むのではない。図書館建設に伴い平和公園も近未来に新しくなるであろうが完成すれば OK ではなく、完成後も地域住民と行政が常に一緒に考え状況に応じ、いつでも変化させることが出来る生き生きとした親しみあふれる公園としたい。区立小中学校・区内の高校・専門学校・大学を始め住民に、これからの公園の在り方を提案してもらって隔年コンペを企画し、区民を巻き込みたい。</p> <p>道路も然りだ。区の主導で出来る区道を真剣に考え新しい考え方の道を作り出したい。</p>	<p>区民の声を反映させた柔軟な公園の使い方などについて検討を行っています。具体的な取組は今後の検討課題となります。</p> <p>また、道路については、新たな区道となる都市計画道路の整備を行っています。区民の方々のご意見を反映した道路づくりとして、今後、自転車道や無電柱化の計画づくりを進めていきます。</p>
<p>・テーマ①：駅を中心とした利便性の高いまち</p>		
17	<p>駅を中心とした賑わい・・・都市機能が集積した拠点とは何か。駅前の賑わいも否定しないが、それよりも駅前商店街と居住地域を繋ぐ何の手立ても無い線状の歩行帯を、人間性に満ちた設えとすることを提案する。潤いに満ちた道路を利用することで、活力と住んでいる土地への愛着を増進させることになり、居住地の地域力を底上げすることに繋がる。区内には人を惹きつけるものが無いとのことであったが、新しく作り出せばよいのです。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、駅を中心としたネットワーク型集積都市をめざして、第3章都市づくりの考え方と方向性において、取組の整理をしています。</p> <p>テーマ①「駅を中心とした利便性の高いまち」において、商店街の活性化と連携した拠点機能の充実として、まちづくりプランの提案等の様々な手法を活用しながら、にぎわいのある商店街をめざしています。</p> <p>ご意見を参考に、今後の都市づくりに取り組んでいきます。</p>
18	<p>都市生活の質を向上させるための取組として、テーマ①に掲げられている駅を中心とした利便性の高いまちを実現することを推進して欲しい。自宅から駅までの快適な移動、子育て支援施設、病院・福祉施設等が集まり安心して暮らすことができることは、住み続けたいと思う上で重要な部分を占めると思う。</p>	<p>第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ①「駅を中心とした利便性の高いまち」をめざして、取組を整理しています。</p> <p>ご意見のとおり、駅を中心とした生活利便施設の整備、駅までのアクセス性の向上について取り組んでいきます。</p>
19	<p>駅前の利便性を高めるため、区内全ての駅を直接車で乗り入れできるよう、事業計画を迅速に進めてもらいたい。現状で周囲を見ていて不便を感じる時、そのような声を聴くことがたびたびあるので、バリアフリーの充実度を増してもらいたい。</p>	<p>駅へのアクセス道路や駅前広場の整備については、大山駅や上板橋駅において取組を進めています。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりの中で、その他の駅についても検討していきます。</p>
<p>・テーマ②：ライフステージに応じて住み続けられるまち</p>		
20	<p>テーマ②について、区独自の手法で具体的にどうして行くのか明確でない。</p>	<p>都市づくりビジョンは、「都市計画に関する基本的な方針」のため、計画の性質上個別の事業や手法については記載していません。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりに</p>

21	<p>統合失調症を初めとした精神障害者が、発症後もそれまで住み慣れた地域で安心して生活を送り続けられるように、一日も早く「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を切望しております。</p>	<p>取り組んでいきます。</p> <p>地域包括ケアシステムの考え方は介護保険制度に由来する概念ですが、この考え方は高齢者のみならず、障がい者支援、地域の子どもや子育て家庭への支援、生活困窮者支援等にも応用することが可能な概念であると考えられます。</p> <p>従って、厚生労働省から提示されている「我が事・丸ごと」の観点から、国の動向を含めながら、第5期板橋区障がい福祉計画の策定の中で、あり方を含めて検討してまいります。</p>
22	<p>統合失調症を初めとした精神障害者は、若年時に発症し、判断能力がなくなり、人格を失うという特徴的な病状は重篤で、強制入院による長期の隔離入院治療を要しても、回復は困難なうえ、再発のリスクも高く、生涯に渡る薬物治療は副作用による重大な負担を伴い、広く社会的には理解が乏しいがゆえに偏見意識も強く、社会的な活動に参加できなくなる等の様々な問題が多重連鎖的に、当事者及び家族に重く押し掛かり、地域生活を困難足らしめる劣悪な状態へと追い込まれます。</p> <p>このように、精神障害者は多大な問題を抱えており、今まで住み慣れた地域で安心して生活をする事は非常に難しい、社会的に最も弱い立場に置かれてしまっていると感じられます。</p> <p>しかも、統合失調症については、統計的に100人に1人は発症するとされていることから、区内にも、5,000人程度は罹患者が暮らしていると推察されます。</p> <p>これだけ多くの困窮した住民がいる中で、その方々への支援体制は遅々として整備されず、私のように困窮した生活を長年に渡って強いられているのではないのでしょうか。精神障害に対する、発症予防、早期治療、入院治療の適正化、早期退院、訪問治療・支援体制の整備、学習の保障、活動の場の整備、理解促進、啓発の支援等の地域における精神保健福祉環境の更なる整備を求めます。</p> <p>医療に関しては、発症当初から一貫して最寄りの病院に安心して診てもらえる様に、精神保健福祉法に乗っ取った医療体制を整備してもら</p>	<p>医療体制につきましては、東京都保健医療計画に基づきまして、平成25年3月の改定で精神疾患も新たに追加され、精神科医療機関の整備がすすめられているところです。</p> <p>訪問による診療ですが、まだまだ訪問診療される精神科医療機関は少ないですが、平成26年度診療報酬改定により、長期入院後や入退院を繰り返す病状が不安定な退院患者の地域移行を推進する観点から、24時間体制の多職種チームによる「精神科重症患者早期集中支援管理料」が新設され、精神科医療機関による訪問診療が増えていくことが期待できます。</p> <p>福祉サービスについては、実効性のある福祉サービスとなるよう、支援の質の向上に努めていくと共に、差別解消法の趣旨に基づき、障がいを理由とする社会的偏見が解消に向かうよう、啓発を続けていきます。</p>

	<p>いたいと思います。</p> <p>その上で今後は、通院による診療ではなく、訪問による診療を行い、障害当事者ならび家族の負担を軽減するようにしてもらいたいと思います。</p> <p>福祉サービスに関しては、当事者並びに家族が負担を強いられることなく、病気を回復させ、体調を改善し、社会的能力を身につけリカバリへと繋がる、実効性のある福祉サービスを実施してもらいたいと思います。</p> <p>広く社会に関しては、未だに深く根付いてしまった偏見意識を解消し、精神障害当事者ならびその家族が、安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、理解促進、差別解消の為の啓発活動を進めていく為の、協力と支援をお願いしたいと思います。</p>	
・テーマ③：ものづくり産業の力を活かして育てるまち		
23	<p>テーマ③について、区独自の手法で具体的にどうして行くのか明確でない。</p>	<p>都市づくりビジョンは、「都市計画に関する基本的な方針」のため、計画の性質上個別の事業や手法については記載していません。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりに取り組んでいきます。</p>
24	<p>ものづくり産業にもっと今まで以上にスポットライトを当て、区のセールスポイントにしてもらいたい。</p>	<p>区のものづくり産業は、23区でも屈指であり、他区にはない特徴の一つとしています。</p> <p>都市づくりビジョンでは、第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ③「ものづくり産業の力を活かして育てるまち」で整理して、ものづくり産業の活力の維持・向上等について取り組んでいきます。</p>
・テーマ④：地域の個性を活かして育てるまち		
25	<p>環境・護岸工事と水量調整装置の完成で氾濫は無くなったが、人々と縁が遠くなった。水面まで下りられる階段で繋ぎ、親水性のある空間とし自然と接して、ゆったりとした時間と環境を作りたい。</p> <p>川際の桜も高齢化しいつまで美しい花を咲かせてくれるのか心配である。吊提灯だけでなく、季節に応じた演出を考えたい。</p> <p>文化について、ほのぼのとした夢と希望を与えている毎年開催の「ボローニア絵本コンクール入選展」を楽しみにしている方も多いと思わ</p>	<p>区としても石神井川沿道の桜については、区の誇る観光資源であると認識しています。そのため、ライトアップや景観に配慮した施設整備、商店街と連携したにぎわいの創出など、魅力向上に資する工夫・仕掛けづくりに取り組んでいきます。</p> <p>また、石神井川沿道の桜については、日常点検や樹木診断等を行っています。老朽化等により安全上問題があるものは撤去し、代わりの桜を植えて更新しています。</p>

	<p>れる。区としての積極的な広報活動と新たな企画を考えたい。板橋には印刷・製本関係の企業も多くあり、ビエンナーレかトリエンナーレで良いのだが、業界の繁栄も考慮したボローニア展とセットの「板橋絵本コンクール」「板橋イラスト・挿絵・漫画コンクール」「板橋絵画コンクール」「板橋カレンダーコンクール」「3D プリントアイデア展」出来れば隣接する公園での野外彫刻展企画等も行い、会場全体を集いと文化の総合イベント」とし、遠方からも来場したくなるような楽しいものとしたい。</p>	<p>公園のイベント活用については、各イベント等でメイン会場に隣接する公園利用を事業主体（事業課）が検討し、主管課と協議することでイベントを実施することができます。</p>
<p>・テーマ⑤：甚大な災害にも強いまち</p>		
26	<p>テーマ⑤は、内容としては良いが具体的な進め方と内容がない。</p>	<p>都市づくりビジョンは、「都市計画に関する基本的な方針」のため、計画の性質上個別の事業や手法については記載していません。</p> <p>ご意見を踏まえて、今後の都市づくりに取り組んでいきます。</p>
27	<p>甚大な災害にも強いまちづくりのために危険な老朽建築物等の解消に向け、区政策内の位置づけの今まで以上に上げ、優先順位も上げてもらいたい。</p>	<p>区では、平成 27 年度に「板橋区老朽建築物対策計画 2025」（以下「対策計画」という）を定め、危険な老朽建築物の対策について取り組んでいます。</p> <p>平成 28 年度には対策計画を確実に推進するための「東京都板橋区老朽建築物等対策条例」（以下「対策条例」という）を制定しました。</p> <p>現在では、これらの「対策計画」や「対策条例」に基づき危険度の高い建築物の所有者等に対し、危険な老朽建築物の解消をめざし、指導や支援等の取組を進めております。</p>
28	<p>区民が安全・安心なまちと感じられるものを災害対策等の具体的な実施を見える化の充実を恒久的にしてもらいたい。</p>	<p>区では災害対策として、耐震化や不燃化促進、避難所整備や要配慮者対策等の様々な施策を行っております。これからも区民の皆様に安心していただけるよう、より見える形で各施策に取り組んでいきます。</p>
<p>○第 4 章 将来都市構造</p>		
29	<p>持続可能な都市構造の実現として、コンパクトシティのような駅中心に都市機能を集積した拠点を形成し、鉄道やバスを利用したネットワーク型集積都市を目指すことは、東上線と三田線を繋ぐネットワークとしても重要であり推進してほしい。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、持続可能な都市構造の実現をめざして、ネットワーク型集積都市をめざしています。</p> <p>また、東武東上線と都営三田線を繋ぐ交通網については、バス利便性の向上やエイトライナー構想の促進をしていきます。</p>

30	<p>ネットワーク整備の重点対象が交通分野におかれているようですが、ICT を駆使した情報ネットワークの整備が急務です。昨今では、在宅勤務を奨励する企業も増えてきており、地域として情報ネットワークを整備することが求められてきます。海外から来る人が日本の WiFi 環境の不備を指摘していますが、地域社会としてこの様な課題の解消にも積極的に取り組む必要がある様に考えます。交通ネットワークの整備や駅を中心とした地域開発を推進するためには、鉄道事業者との連携強化が不可欠ですが、例えば東武鉄道による東上線の沿線開発計画との整合性は取れているのでしょうか。東武鉄道の中期経営計画に「沿線における事業価値の深耕と沿線価値の向上」が挙げられていますが、具体的な記載がなく判断できません。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第4章将来都市構造において、ICT等の先端技術を活用した情報ネットワークの充実を掲げ、既成市街地の再生と地域価値の向上を図り、防災・減災、健康・福祉、教育・保育等の側面を包括した板橋区らしいスマートシティの実現をめざしています。</p> <p>また、鉄道事業者との連携については、都市づくりビジョン(案)を作成する上で事前に協議・調整を行っています。</p>
31	<p>高島平六丁目の西北部流通業務団地は東京全体を担う物流施設の集合体であり、物流の効率化を支え、都市機能の向上に資すべき役割を担って半世紀を目前に迎えます。</p> <p>この役割を今後とも継続して果たしていくため、当流通業務団地といたしましては、以下の3点については是非とも実現へ向けた対応をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 限られた土地を有効活用するために、高さ制限の緩和 2. 緑地規制の緩和 3. 流通の効率化を図るために、一般車輦と物流トラックの車輦動線や、歩車道分離等の施策の実施。 <p>上記3点に関しての明確な施策確約の明記をお願いします。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第4章将来都市構造において、高島平六丁目の流通業務団地を物流拠点として位置付け、施設の更新にあわせて集約・高度化について記載しています。高さ制限の緩和や緑地規制の緩和等の具体的な内容については個別にご相談ください。</p> <p>なお、これらの緩和にあたっては、地域への貢献をお願いします。</p> <p>また、車両動線については、第6章エリア別の都市づくりの高島平周辺に考え方を追加しました。</p>
○第5章 分野別の都市づくり		
・土地利用の誘導		
32	<p>生産緑地はぜひとも、守っていく方針で行くべきだと思いますが、全部が有効に活用されている訳では無い事も事実です。緑がたくさん植えられている訳でも、農業をしている訳でもなく、ただただ放置されている場合もあります。</p> <p>そんな土地は真っ先に宅地化されると思いますので、今話題となっている新しい用途地域の田園住居地域とまではいけるかは分かりませんが、色々な視点から見る人も住む人も快適な</p>	<p>生産緑地地区は、平成34年に指定面積の約73%が指定から30年を迎え、生産緑地地区が減少することが懸念されています。</p> <p>都市づくりビジョンでは、第5章分野別の都市づくりにおいて、都市農業の振興等をめざし、生産緑地地区の下限面積を条例により引き下げることや都市計画法の改正により新たに加わった田園住居地域の活用</p>

	住宅を作っていけるように誘導していけるように出来ると良いと思います。	を検討しています。
・道路・交通ネットワークの形成		
33	<p>徒歩・自転車での移動が多いため、安全面から道路整備を積極的に行っていただけると助かります。</p> <p>住みやすいと感じる基準は、人によってかなり異なると思いますが、今後もまちづくりへの取組を頑張ってください。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第5章分野別の都市づくりにおいて、階層別な道路網の整備や誰もが利用しやすい道路・交通ネットワークの形成をめざしています。</p> <p>ご意見を踏まえて、徒歩や自転車で移動しやすい区をめざし、都市づくりに取り組んでいきます。</p>
34	区内に住んでいるが、休日区外に出ることが多い。区内の南北方向の移動が特に不便であることも、区内で過ごさない一因かもしれない。	区としても区内の南北方向の移動が不便なことを課題として、都市づくりビジョンにおいて、東武東上線と都営三田線を繋ぐ交通網については、バス利便性の向上やエイトライナー構想を促進していきます。
35	まちの回遊性についてですが、都市づくりビジョンでも記載されていましたが、やはり住んでいる身としても縦の導線が区は弱いのではないかと考えています。国際興業バスやコミュニティバス、エイトライナー等応援しています。	区としても区内の南北方向の移動が不便なことを課題として、都市づくりビジョンにおいては、東武東上線と都営三田線を繋ぐ交通網については、バス利便性の向上やエイトライナー構想の促進に取り組んでいきます。
・住宅・コミュニティの形成		
36	都市づくりビジョンの中で、世代を通じて住みやすい住宅コミュニティ形成が都市整備分野にあります。しかし、一部にはマンションの専有部の登記が相続されて適切に管理されていないような物件も出てきていると思います。戸建て住宅の権利登記の問題だけでなく、マンションについても管理組合に働きかけて、登記簿の定期的な収集を義務づけるように誘導する等の措置が重要な時期に来ていると思います。特に築20年以上のマンションでは世代交代も始まっているはずで、将来の建て替え等の適切な住環境維持に管理組合への働きかけが区としても必要だと思います。	<p>区では、平成29年度中に「板橋区良質なマンションの推進に関する条例」を制定し、マンションの登録を義務化します。</p> <p>また、平成30年度には実態調査を実施し、現在のマンションの実態を把握する予定です。</p> <p>そこで洗い出された課題等については、今後対応し、適切なマンション維持・管理を推進していきます。</p>
37	<p>若者への定住施策もぜひとも頑張りたいです。</p> <p>高島平団地ではほぼ高齢者しか住んでいないような状況が続いています。</p> <p>URが無印と若者の入居を狙ってリノベーション</p>	今年度、策定を予定している「板橋区住まいの未来ビジョン2025」で、若者が区に住んでみたいと感じる住環境の形成を目指しており、空き家・空き店舗の活用による、住宅供給支援の情報提供や、区内不動産団体

	<p>ヨン等の取組もしてきました。今後も空き家等の既存のストックを生かして、若者が住みやすい街にしていけるような取組に期待しています。</p>	<p>と連携した、多様なニーズに対応した、新しい住まい方の供給促進等を検討しています。</p>
<p>・緑と水の創出・保全</p>		
38	<p>昭和 30 年代に決定された都市計画公園（泉町）の今後は？</p>	<p>泉町や清水町の一帯に広がる都市計画公園（清水町）については、昭和 32 年 12 月 21 日に都市計画決定しています。</p> <p>東京都の「都市計画公園・緑地の整備方針」の中の優先整備区域に位置付けされていないことから、清水町公園の整備については未定となっています。</p>
<p>・低炭素・環境共生社会の実現</p>		
39	<p>都市ガスの原料である天然ガスは、低炭素社会の実現に向け重要なエネルギー源として期待されています。その都市ガスを燃料としたコージェネレーションシステムは、発電時に発生する排熱を回収し、地域の冷暖房や給湯に融通しながらエネルギーを有効活用することができ、なおかつ分散型電源による災害に強い街づくりも同時に実現できます。</p> <p>再開発事業や公共施設の整備時は、このシステムを活用し、複数の建物でのエネルギー利用や融通により、面的にエネルギーネットワークをつくる好機であり、電源の多重化や電力需要ピークの緩和にも役立ちます。さらに、太陽熱等の再生可能エネルギーや清掃工場の排熱等の未利用エネルギーを組み合わせることにより、効率の高いエネルギーネットワークの構築が可能になります。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第 5 章分野別の都市づくりにおいて、環境負荷を抑制した施設の整備について取組を整理しています。</p> <p>ご意見を踏まえて、市街地再開発事業や公共施設を整備する際は、コージェネレーションシステムやエネルギーネットワークの構築等を検討していきます。</p>
<p>・街並み・景観の形成</p>		
40	<p>無電柱化が進めば、街並みもきれいになり、また、災害に対しても強くなるので、是非推進してほしい。</p>	<p>来年度より無電柱化計画を策定し、無電柱化に取り組んでいきます。</p> <p>都市づくりビジョンの中には、第 5 章分野別の都市づくり「街並み・景観の形成」、「安心・安全な都市づくり」に取組を整理しています。</p>
41	<p>区内に住んではいるけれど、休日、区内で出かけた場所がほとんどない。近くに緑のきれいな公園や散歩したくなる道、魅力的なお店がほしい。</p>	<p>第 3 章都市づくりの考え方と方向性のテーマ④「地域の個性を活かした環境・文化を創造するまち」の考え方に基づき、魅力ある公園整備・活用、歴史的・文化的視点を含んだ都市づくり等の地域の魅力・誇りを実感</p>

		し、継承してもらえよう都市づくりに取り組んでいきます。
42	近年、区内に大型マンションが次々と建設されている印象がある。住宅街等に突如、巨大な壁がそびえ立つように高さや容積率を上限いっぱいまで使って建設されるので、近隣トラブルの元にもなり得るし、街並みを壊していると思う。	都市づくりビジョンでは、第5章分野別の都市づくり「街並み・景観の形成」に基づき、区全体の景観の向上に向けて引き続き取り組んでいきます。 地域の状況に応じて、良好な住環境の保全をするため、建築協定や地区計画、景観都市づくりの手法の活用により良好な街並みを誘導していきます。
43	街並み景観育成については市民参加をもっと推進するべきだと考えます。事例としては町道その周辺の美化問題があります。区の財源ですべて賄うのは無理があるため、町会やボランティア団体が除草活動や清掃活動をしやすいする必要がありますし、グループの認定制度等の整備、助成制度等を設定してください。	地域コミュニティの活性化や福祉の向上につながる防犯、防火・防災、青少年健全育成、環境美化活動等の町会・自治会の活動を区としても引き続き支援していきます。 また、まちづくり協議会等の活動については、継続的な活動に結びつくような支援を、都市づくりに関する条例や要綱等に基づく区独自の支援策や協働の進め方を検討していきます。
・安心・安全な都市づくり		
44	大規模災害発生時においては、都市機能の継続や社会サービスの維持は、区民の暮らしを守るため、また迅速な復旧・復興には必要不可欠になります。特に病院や避難所となる小中学校施設は、災害時に利用できる電源確保が求められます。災害時の備えとして非常用電源に加え、病院や官公庁施設等に自立分散型のガスコージェネレーションシステムを設置することにより、災害時停電時でも必要業務を継続するための電力と熱の供給を継続できるため、災害に強い都市基盤を整備するにあたりこれらの建物がより重要な役割を果たせるものと考えられます。 再開発事業においては、中核となる再開発施設を中心にインフラをネットワーク化し、電力と熱を面的に利用することにより、地域全体で最低限必要な電力及び熱の供給を継続することができるため、災害時に強い街づくりができると思います。	災害時に区民と暮らしを守る拠点の機能維持を図るため、避難所において災害時の電源の確保や防災備蓄の充実を進めていくことや大規模開発時に自立分散型電源等の設置を促進していきます。 都市づくりビジョンでは、第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ⑤「甚大な災害にも強いまち」及び第5章分野別の都市づくり「安心・安全な都市づくり」に位置付けしています。 ご意見を踏まえて、市街地再開発事業や公共施設を整備する際は、環境配慮等の視点として参考とさせていただきます。
○第6章 エリア別の都市づくり		
・全般		
45	「エリア別の都市づくり」構想は、地域ごとの特性を活かすという視点にたった面白いアプ	エリア別の都市づくりを区のイメージアップに活用していくことについては、検討

	<p>ローチで、この構想を区外へのアピールに取り込んでいけば区のイメージアップにつながる様に思います。</p> <p>また、石神井川を目玉にした景観の向上という点では同じ流域の練馬区・北区等の近隣区との連携を取ることでその実効性が高まると思います。</p>	<p>させていただきます。</p> <p>また、区境や川等の区を跨るものについては、東京都や周辺自治体と広域的なまちの課題として連携して取り組んでいきます。</p>
46	<p>都市づくりビジョンには、エリアごとの展開方針が示されていますが、それぞれの地域の特性が活かされ、誇れるまちになればと思います。</p>	<p>各エリアの特徴を存分に引き出し、多様な価値・魅力を創造すると共に、各エリアの課題に対応するきめ細やかな都市づくりの方針を基に都市づくりを進めていきます。</p>
<p>・大谷口・向原エリア</p>		
47	<p>大谷口、向原エリアには、日大板橋病院、武蔵野病院、心身障害児総合医療療育センター等の既存の医療施設があり、「板橋区地域保健福祉計画2025」では、向原三丁目地区(団地のあと地)に高齢者や障害者含む多様な人々の生活を支援する福祉施設を整備することが決定されている。</p> <p>この立地環境からして、この地に是非「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を早急に構築して頂きたい。</p>	<p>地域包括ケアシステムは介護保険に係る制度ではありますが、厚生労働省から提示されている「我が事・丸ごと」の観点から、国の動向を含めながら、第5期板橋区障がい福祉計画の策定の中で、あり方を含めて検討してまいります。</p>
48	<p>大谷口、向原エリアには、日本大学医学部附属板橋病院(日大病院)等の大規模病院が立地し、また向原三丁目地区では、新たに高齢者や障害者を含めた、新たな福祉施設を整備する計画も進められています。</p> <p>これらの社会的資源を連携活用することで、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築することができるのではないのでしょうか。</p>	<p>いずれの障がいについても、既存の社会的資源の配置状況を勘案しながら、各地域でそれぞれどの機能を分担するのが適当なのか、検討してまいります。</p>
49	<p>大谷口・向原エリアは、公共交通サービス水準が相対的に低く、区内を東西南北に移動できるバス路線がなく、回遊性も低い。</p> <p>特に高齢者、障害者が区内の他のエリアの公共施設等を利用するときの交通手段を構築すること。</p>	<p>本エリアの公共サービス水準が相対的に低いことやエリア内の回遊性が低いことについては、区としても認識しています。</p> <p>高齢者、障害者の交通手段の構築については、今後策定する交通政策全般に関する方向性を定める交通基本計画の中で検討させていただきます。</p>
<p>・小豆沢・志村エリア</p>		
50	<p>私の住んでいる小豆沢・志村エリアが、気軽に運動ができる活気のあるまちとして、住み続けて良かったと思えるまちに発展することを切に願っています。</p>	<p>エリア別の目標に基づく都市づくりを進めて、エリアの魅力や価値をつくっていきます。</p>

51	<p>小豆沢・志村エリアには、崖線もあり、平地もあり、川もあり、神社もあり、史跡もあり、公共性の高い施設もあり、比較的広い特徴的で整備された公園もあり、板橋の一品に認定されているようなお店や穴場のカフェ・レストランもある。水や緑が豊かで、住み心地のよい清潔感のあるまちだと感じている。</p> <p>派手なものはないが、上記のものを生かしながらか、ここに住んでいる人たちが、気分転換や健康のために気軽に歩けるような、老若男女楽しめる身近で魅力的な歩道づくりができれば楽しい。</p>	<p>エリアの地域資源を活用して、エリアの魅力や価値を高めていくような都市づくりを進めていきます。</p> <p>都市づくりビジョンでは、地域の資源を活用した健康づくりや歩いて楽しくなる日常生活圏の形成について、第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ②「ライフステージにあわせて住み続けられるまち」取り組んでいきます。</p>
52	<p>一里塚通りには、整備された歩道もなく、大型トラックも頻繁に往来しているため、特に通勤時には、歩行者への危険を感じる人が多い。</p> <p>一里塚を中心とした広場的な整備とともに、それにつながる一里塚通りの歩道の一体整備ができればいいなと思う。</p>	<p>歴史文化資源を活かした連続性のある街並み景観の形成や歩きたくなる都市づくりについては、第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ④の地域の個性を活かした環境・文化を創造するまちに位置付けしています。</p> <p>一里塚の活用については、このような考え方を基に引き続き都市づくりを進めていく際の参考にさせていただきます。</p>
53	<p>小豆沢・志村エリアは、8つのエリアの中で唯一区を横断して東西両側の区と隣接しているため、区に不足している東西方向の交通網と区界を意識したまちづくりができればいいなと思う。</p>	<p>東武東上線と都営三田線をつなぐ東西方向の交通網については、エイトライナー構想として引き続き掲げていきますが、都市づくりビジョンでは、東西方向の移動はバス利用による移動を考え、バス交通の利便性の向上について、第5章 分野別の都市づくりの道路・交通ネットワークの形成に位置付けしています。</p> <p>区境については、東京都や周辺自治体と広域的なまちの課題として連携して取り組んでいきます。</p>
54	<p>小豆沢・志村エリアに掲げている“活力ある産業との共存”というテーマは、近年の企業の郊外移転及びその跡地への大規模マンション建設ラッシュにより、難しいのではないかと考える。</p> <p>今は、産業よりも住宅地であり、さらに20年後のまちとして、“活力ある産業との共存”というまちが想像しがたい。</p>	<p>工場の宅地化の進行については、区としても課題と認識しています。</p> <p>本エリア内には、区の地場産業である光学をはじめとする精密機器や印刷関連業があり、都市づくりビジョンにおいても産業集積地に位置づけ、23区屈指のものづくり産業の力の維持・発展を図っていきます。</p>
55	<p>ソフト面のまちづくりとして、大規模マンション建設ラッシュに伴う子供の増加のため、子</p>	<p>区では、生産年齢人口の定住化を促進するため、子育て世帯や女性・若者をターゲット</p>

	<p>供に対する支援を充実させるようなものが必要ではないかと考える。</p>	<p>トにした子育て・教育施策の充実を進めていきます。</p> <p>都市づくりビジョンにおいても、子育てしやすい環境の整備として、第3章都市づくりの考え方と方向性のテーマ②「ライフステージにあわせて住み続けられるまち」の連携策にソフト面の取組を整理しています。</p>
56	<p>20年後、さらにその先に、今建設ラッシュの大規模マンションが、今の高島平団地のようになると、高齢者しか住まないまちになる可能性があるため、それも踏まえたまちづくりを考えないといけないのかもしれない。</p>	<p>今後は良好な住宅ストックを活用し、ライフステージの変化に応じた住替え・定住の促進に取り組んでいきます。</p>
○第7章 都市づくりの推進に向けて		
・協働の取組について		
57	<p>施策の展開において官民業による協働に可能性を導かれたことは評価しますが、一方でそれぞれの立場における役割や目的、さらにはその関係を定義しないと実行における主体が曖昧になり、PDCA サイクルにおいて正しい評価ができず適切な改善が行えません。</p> <p>マスタープラン段階とはいえ、施策の展開に協働を位置づけるのであれば、官民業それぞれの役割と相互の関係について本文に記載すべきと考えます。</p>	<p>多様な主体と連携した都市づくりとして、各々の役割分担については、第7章都市づくりの推進に向けて示しています。</p> <p>区では、多様な主体はそれぞれ自立した立場であり、具体的な関係性の定義については、今後検討する都市づくりに関する条例や要綱等に位置付けしていきます。</p>
58	<p>協働における事業の展開の中で、その組織あるいは活動体に参加する人員の継続的な参加やモチベーションを維持するためには、その組織の活動を支援する必要があります。</p> <p>行政が市民と協働で地域の課題を解決していくためには、市民側組織の発展と向上が必要であり、行政側にも、僭越ながら、意識改革が不可欠です。そのような相互の未達部分を補い相互の連携を助長するような、行政から独立した中間支援組織がないと、協働による施策の展開は十分な効果を発揮できないと思いますので、中間支援組織の立ち上げを含めたその位置付けを本文に記載すべきと考えます。</p>	<p>区としても、区民・事業者主体の都市づくり活動を支援し、継続的な活動に結び付けてほしいと考えます。</p> <p>今後、都市づくりに関する条例や要綱等に基づく区独自の支援策や協働の進め方を検討していきますが、アーバンデザインセンター等を含めた様々な組織について、検討して行きます。</p>
59	<p>まちづくり協議会への支援は積極的に進めてほしい。</p>	<p>区としても、区民・事業者主体の都市づくり活動を支援し、継続的な活動に結び付けてほしいと考えます。</p> <p>今後、都市づくりに関する条例や要綱等に基づく区独自の支援策を検討していきま</p>

		す。
・財源について		
60	<p>計画対象期間が8年間と長く、生活環境の変化が激しくなっている現代社会の社会ニーズを想定することは難しいので、8年間を分割して初期にロードマップを示さないとPDCAを回すことすら難しくなり、ビジョン達成の評価に結び付かなくなります。又、達成目標のほとんどが数値化されていなくて感覚的な設定になっているので、達成したかどうかの判定が曖昧になる点が危惧されます。</p>	<p>都市づくりビジョンは、都市計画法に基づく区の都市計画に関する基本的な方針を示す計画であるため、計画の性質上具体的な事業についての記載はしていません。</p> <p>今後、この都市づくりビジョンに基づいて、個別に事業計画や予算を取得し、取組を進めていきます。</p> <p>指標については、評価することが目的ではなく、社会情勢の変化とまちの動向を確認し、柔軟に施策・事業に反映していくための手段として捉えています。</p>
61	<p>ビジョンのテーマ毎・課題毎の予算が示されていません。期間が8年と長く年度予算との絡みもあるのでビジョン策定時に提示しにくいのは理解できますが、数字の裏付けのない計画は実現の信憑性が疑われます。</p>	<p>都市づくりビジョンは、都市計画法に基づく区の都市計画に関する基本的な方針を示す計画であるため、計画の性質上具体的な事業についての記載はしていません。</p> <p>今後、この都市づくりビジョンに基づいて、個別に事業計画や予算を取得し、取組を進めていきます。</p>
62	<p>区民の意見をもとに限られた財源をシェア化（カーシェアの活用による駐車場空間をまちづくりに活用等）する等により、環境にやさしいまちづくりの実現を計画的に行ってもらいたい。</p>	<p>都市づくりビジョンでは、第5章分野別の都市づくり「低炭素・環境共生社会の実現」において、カーシェアリングの普及促進等による多様な移動手段へ転換し、低炭素社会の構築を進めていきます。</p>